

競技委員会議事録

2010年10月9日（土）

SET茨城（NASA）ショップにて

出席者
板垣直樹（委員長）
松村貴博
牟田園明
内田秀子
北野正浩

記録：北野

（★は決定事項、■は継続審議）

●国内ランキング（ヒート制）について

（1）競技委員会ホームページの、国内ランキングの表がわかりにくい。
・DQの高低により、見かけ上、低い方の点数が採用されているように見える場合がある。
★表を2段にして、実際の得点と、1000点ノーマライズした点数を併記する。

・表に載っている点数からシード係数分の点数が引かれるので、単純な合計と一致しない。

★ページ上部に表の見方の説明を入れる。

（2）少人数の大会での1000点も、80人近く出場した大会での1000点も、同じ扱いになってしまう。

・参加人数の項が入っていないため。

・たとえば40人以上出場の場合に満額1000点がつくようにして、これを下回る人数の場合は点数が低くなるようにしてはどうか。

→栄える大会は栄え、廃れる大会はますます廃れる。

・人数の項を入れるより、シード選手不参加による減点幅を大きくしてはどうか。

現在：Aシード5点、Bシード3点、Cシード1点（30位以上の選手が1人もいない場合90点マイナス）

改定案：Aシード10点、Bシード5点、Cシード3点（30位以上の選手が1人もいない場合180点マイナス）

・シード選手不参加による減点を、引算ではなく、割合をかけるようにしてはどうか。

（改定案のようにAシード10点、Bシード5点、Cシード3点とした場合、30位以上の選手が1人もいない場合、 $1000点 - 180点 = 820点$ なので、82%をかける）

・あるいは、シード選手の不在分を減点するのとは反対に、シード選手が参加したら点数を上積みするようにしてはどうか（この場合、満点が1000点を超える）。

■継続審議とする。

（3）世界選手権選抜ポイントと、国内単年度のヒート制の得点を別に集計しているため、大会参加者同士でも違う目標に向かって飛んでいることになる。これはあまり健全ではないという意見。

→代表入りを意識している選手がどのくらいいるか？ 多くの選手は、もともと現実問題として考えていないのでは。

★現状のヒート制を継続する。国内ランキング上位者の世界選手権代表選出については次項参照。

●世界選手権への代表選手選抜について

(1) ヒート制による国内ランキング1位の選手は代表入りできるが、2年間の通算による世界選手権選抜の選手と重複する場合は、次点以下の選手が繰り上げられず、無効になっている。

→次点以下の選手ではレベルが下がってしまうのでは？

→国別代表枠は5~6人なので、最低でも6位の選手ならばレベルが低いということはない。

★重複する場合は次点以下を繰り上げ、国内ランキング上位から必ず1人代表入りできるようにする。

(2) 世界選手権の国別枠は、近年は5~6人だが、枠が拡大された場合も国内ランキングからの出場は1人のみか。2人以上に増やすことは想定しないか。

→参加枠の決定は、世界選手権開催年になってから決まるのが通例。前年の国内大会実施中に、世界選手権選抜ポイントは決まっている。7人目の枠ができたからといって国内ランキングからの出場を2人に増やすと、世界選手権選抜ポイントで6番目の選手との間に遺恨を残す可能性がある。

★やはり国内ランキングからは上位1名のみとする。

(3) 国内ランキングの2年分の通算（1年目は半分）を使うか、世界選手権前年の1年分のみを使うか？

★国内で急成長した選手を派遣できるようにするという意図もあるので、前年の1年分のみを使う。

(4) 世界選手権参加時に獲得できるポイントが非常に高いので、代表経験者は、次回世界選の選抜においても有利になっている。新たに代表を目指している選手から不満の声も聞こえる。

→代表としての経験を積むことで好成績が狙えるので、現状のルールでも良いのでは？

→世界選手権で活躍できる選手ならば、2年間の通算ポイントで上位に入るはず。毎回、全員同じ条件で競った方が良い。

★2011年世界選手権イタリア大会で獲得したポイントは、次回世界選手権への選抜には使用しない。

●パラシュートリパックについて

・ハンググライダーシリーズ大会の競技規定では「120日以内にリパックしたパラシュートを装備すること」と定めている場合が多いが、実際にはチェックされていない。JHFのリパック認定制度と整合させるため、大会受付時に確認することが必要では。

★来年度からチェックを開始する。ただし、初年度はペナルティを課さず、注意にとどめる。

●タスクコミティとセーフティコミティのセットアップ場所について

・コミティに選ばれた選手は、タスク設定に時間を取られるため、自分の競技の準備に影響が出てしまうことがある。特に、セットアップ場所がタスクボードから遠い場合には、不利益が大きい。セットアップ場所を優先する等の優遇措置を講じるべきではないか。

★優遇措置を講じるよう、各大会主催者に推奨する。

→これにより、コミティに立候補する選手の増加が期待できる。

→コミッティを経験することは選手の経験上プラス（タスクについて普段よりも真剣に考え、その結果、競技への理解が深まるため）なので、コミッティを経験する選手が増えることで、全体のレベルの向上も期待できる。

●デジタル航空無線所有者への返金について

- ・デジタル航空無線所有者は、大会参加時にスカイレジャー無線を借りなくてもよいことにし、エントリー費に含まれているJHFへのレンタル料1000円を返金してはどうか。
- ・デジタル無線への移行は国の政策で決まっているので、現在のスカイレジャー無線はいずれ使えなくなる。
- ・現在のスカイレジャー無線機は購入後十数年を経過し、故障率も高まっているので、いずれ数が不足するようになる。
- ・JHFでは購入時の補助金を出すことにより個人での購入を推進しているので、競技委員会としてもその路線に従う。
- ・大会主催者は、スカイレジャー無線を1台使用しない分、JHFへのレンタル料支払いが発生しないので、損も得もしない。

→当面の間、スカイレジャー無線のみの選手と、デジタルの選手が混在することになるので、緊急時に選手間で連絡を取れなくなるというリスクはないか？

→発生し得る状況だが、無線機を2台も3台も積んで飛ぶのは難しい。

→JHFで200台揃えるには1300万円もかかるので、これも現実的ではない。

→デジタルの購入を促進し、移行期間をできるだけ短くするのが、最良の選択ではないか。

★競技委員会としては、各選手にデジタル航空無線の購入を推奨する。

●外国人選手の大会参加時におけるフライヤー登録について

- ・数日間の大会のために5000円の登録料を取るのは気の毒。有効期限半年程度の短期会員制度を作り、半額程度で登録できるようにできないか。

★理事会に提案する。

以上